

『一人の笑顔のために』

中学生の「税についての作文」表彰式

毎年、「税を考える週間」は全国的に11月11日から一週間とされており、平成5年から中学生の税の作文が募集されてきました。今年度も、本校の取組が認められ、昨年度に引き続き11月13日の表彰式において受賞の運びとなりました。本当に名誉な事だと感謝しています。

今年度は、荒尾玉名の中学校から、1108編の作文の応募がありましたが、その中の27作品が優秀作品に選ばれ、表彰されました。本校でも2人の生徒が受賞しました。2人とも、身近な出来事から税金の恩恵に気付き、将来の生き方を見つめ直しています。将来を担う中学生が、「税」について関心を持ち、正しい理解を深めることはとても有意義なことだとあらためて感じた表彰式でした。

<学校表彰（本校受賞）>

□全国納税貯蓄組合連合会 作文募集推進校感謝状

<生徒作文表彰>

□熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞

吉永希和さん(2年)「みんなのために」

□玉名税務署長賞 鍋島彩里さん(3年)「みんなの生活と命を守る税金」

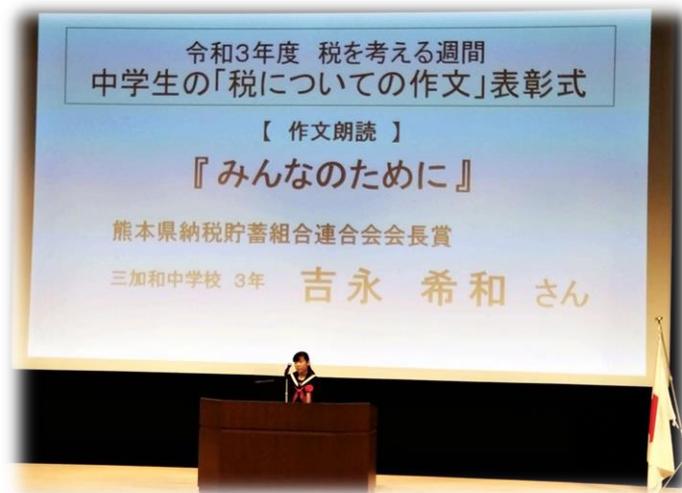
※受賞作品の中でも、上位4点のひとつに選ばれた吉永希和さんの作文を紹介します。

熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞

『みんなのために』

日本には、義務教育という制度があり、年齢に応じて、小学校、そして中学校に通っていく。賞学校、中学校には、設立から個人で使用する机や教科書に至るまで、税金が使われている。また、学校に勤務している先生達などの教職員のお給

料や経費も税金から支払われており、税金が給料として支払われている人達のことを公務員といたりする。毎年、各教科の教科書が配られるときなどには先生方が、教科書は税金で買って





もらったもののため、大切に使用する事を話される。

公務員には、警察官や消防士などさまざまな職が含まれている。その職業は共通して、皆が安心安全でより豊かに暮らせるためにあるのだと思う。

しかし、現代では少子高齢化が進み、一人あたりの支払う税金が高くなってきている。このままいけば、所得が少なくなり、生活に余裕がなくなってしまう。そして、お年寄りがふえるばかりで子供が少なくなる。すると、また一人あたりの税金が増え、所得が減って物価が低くなり、経済が停滞してしまうという悪循環につながりかねない。

私は、義務教育は先行投資だと思う。今からしっかりと基礎を学び、社会に出て働くようになったときに税金を支払うことで還元されていっているのではないかなと思う。また、税金の支払いは、年金の前払いだという考え方もある。

近年、税に関して、さじを投げる人がいたりするが、私は、義務教育や年金、他にも気づきにくいところで返ってきていると思う。例えば、道路整備や国の防衛などいつもあたり前だと思っているところにこそ、税金が使われていたりもする。あまり気づかないようでも、税金は私たちの役に立っている。何げないことにも感謝し、いつものあたり前にもたくさんの人の努力と労力があって、その上に成り立っているということを忘れてはいけないと思う。誰もが等しくこのように思うことは不可能だろうが、少しでも多くの人々がそうなってくれば、自分勝手な人は減ると思う。